

◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料440円

- 1、字句＝始制文字
- 2、形式＝半紙タテ使用。右に「始制」、左に「文字」と臨書し、左余白に「〇〇臨」と調和を工夫して書き入れる。



草書千字文・唐 懷素

- 3、概観＝〇虚線を強調 虚線というのは、実線を書き進めるにあたって実線として表われない部分のことが多く、仮に筆路が繋がっていたとしても補助的な域を出ないものです。懐素の書における虚線は、実線かと思われるほどに強調されている。いや、むしろ虚線を効果的に使っているように思います。上掲の「改」・「紛」・「短」は、いずれも左下から右上に移る線にあらわれています。この三字共狭い偏の後に強い虚線が表われているのは興味深い。これは、懐素の筆癖と思われ他にも多く見られます。
- 4、各字のポイント

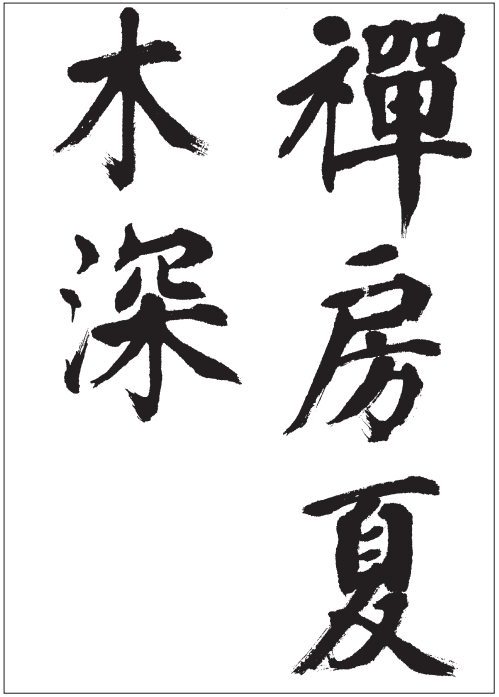
始 一画目は軽いタッチで。△で裏面を使い、引き上げてゆき、○で表面。途中筆が離れて見えるが、離さず□は直角に右面を使い運筆。

制 △で裏面にし、長縦画は反らし、□は裏面、○は表面と面を変えながら運筆。面を変える箇所では鋒先を突く。

文 起筆は強く。△で筆を引き上げ、∴で押してゆき、末筆で引き上げて、次画に意連。鋒先で入筆し、二呼吸で運筆。

字 一画目の点と「一」の間に余白。上部を広くし、収画の横画を下げて重心を下におく。その横画の背勢が「一」の向勢と対応している。

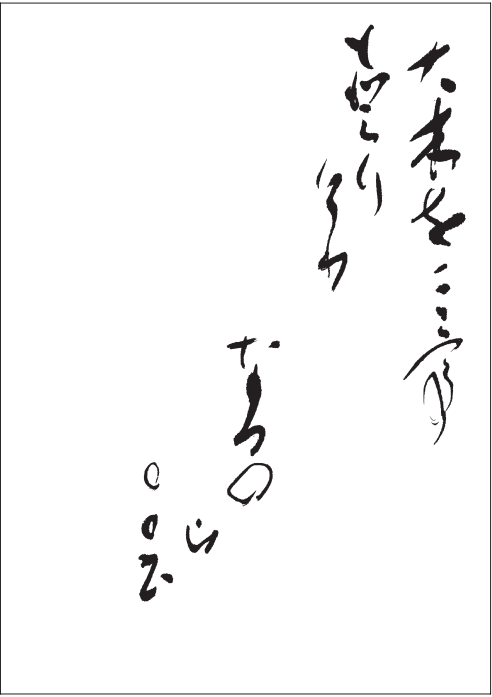
半紙課題(予告) (八月二十二日締切)

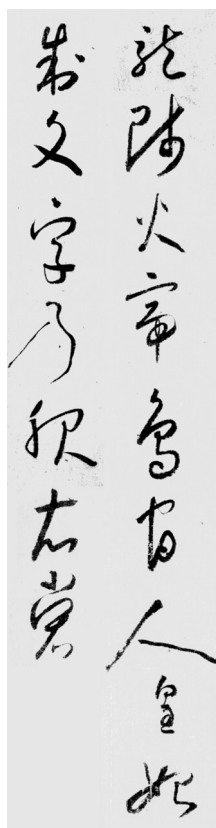


平岡華雪先生書 禪房夏木深し(斐迪)

訳：禅寺に夏木立ちが樹蔭を深くしている。

平岡華雪先生書 大木を見てもどりけり夏の山(蘭更)



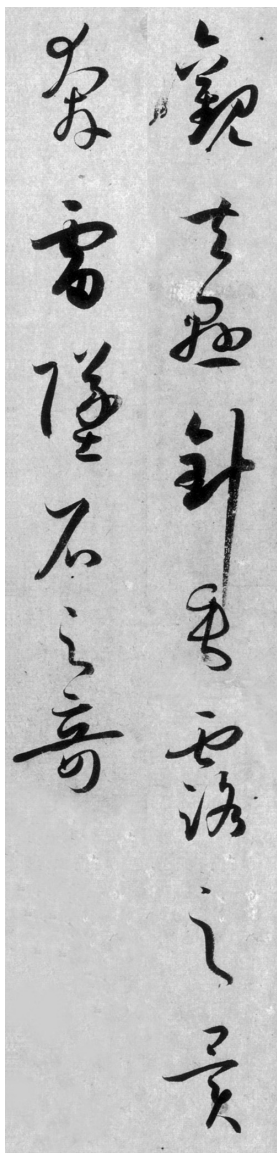


龍師火帝。鳥官人皇。始制文字。乃服衣裳。
中国古代の帝王には、龍の字を官名に付けた伏羲氏かきしがおり、火徳で炎帝えんていといわれた神農氏しんねうし、また鳥をもって官名に名付けた少昊氏せうこうしや人皇じんこうと呼ばれた軒轅氏けんえんしがいた。黄帝のときに、蒼頡そうげつが初めて文字を製作し、また上着と袴はかまを作った、それを身にまとうようになった。

※随意部参考
(半紙・条幅)
としてもご利用下さい。抜粋可。
随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。

研究部課題 (七月二十二日締切)

(課題)



(出典) 『書譜』孫過庭
観夫懸針垂露之異。奔雷墜石之奇。

古人の筆跡の懸針、垂露、奔雷、墜石などの筆法を観察していると、

▽注意

- (1) 半切タテに臨書する。
- (2) 二行書き・字詰め自由。
- (3) 落款は「石庵臨」と書き入れること。雅印は無用。(出品者の本名又は雅号を書き入れた作品は不可)

- ▽出品要項
- (1) 資格⇨推薦、準推薦、推薦格合格者(漢字・随意・かなのいずれかで推薦格以上であればよい。また同人、準同人も歓迎)
 - (2) 締切⇨七月二十二日必着
 - (3) 発表⇨書筵九月号誌上
 - (4) 出品料⇨九四〇円同封
 - (5) 出品方法
ア、出品は一人一点とする。
イ、私製の出品票(縦10cm×横5cm)を作品の左下に貼付する。

一字書 (七月二十二日締切)

課題

魁

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣
の空欄に一字と記入 段級は無記入

A

高橋香樹会長書

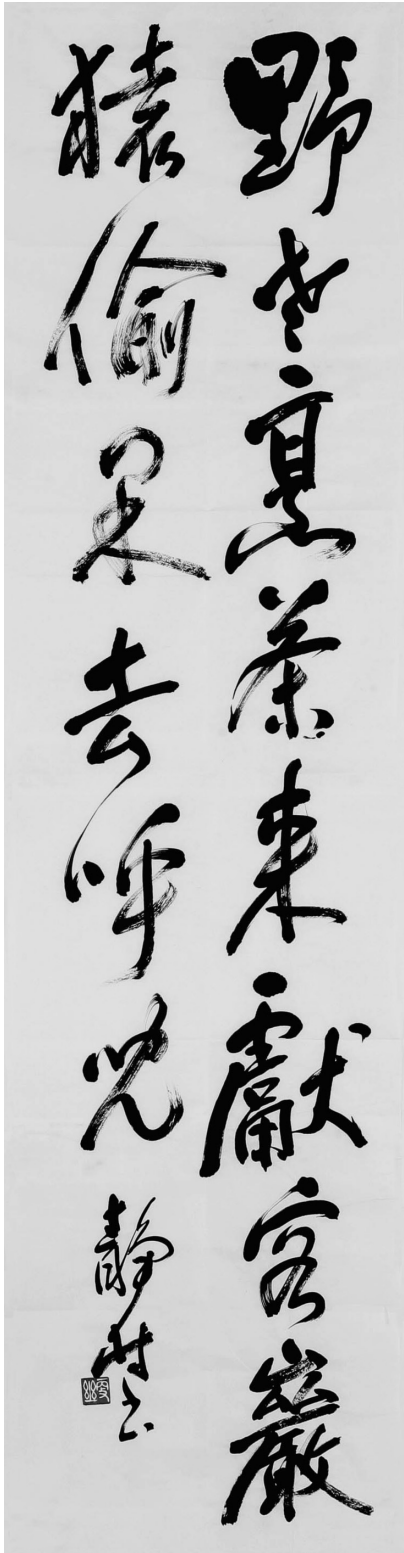
野老烹茶來獻客 巖猿偷果去呼兒 (朱晞顔)
 やらう ちやう かに きた けん けん ん ぬす じ
 野老茶を烹て来て客に献じ、巖猿果を偷んで去って児を呼ぶ。



B

鈴木静村先生書

今回は行草単体の作。行草共に七字。一行目は画数多い文字が並び、二行目後半に画数の少ない文字が多いという仲々難しい構成。故に、一、二行目共に七字という構成にし、「偷」の末筆を長く延ばし、変化をつけました。墨継ぎは、獻と果。



野 “里”頭の部分を幾分大きく。烹 背を高くし「連火」はグンと幅をとる。獻 20画、巖 23画。多画数の文字を調和よく表出すること、これが一つの入力Vである。的確な行書で細かく表出。(もちろん、草書体使用も可。) 猿 偏の書き方が大切。猿から偷へ意連。旁も大きく字幅。

訳：田舎の老人が茶をたてて客に出している。岩の間に住んでいる猿が果実を取って、子猿を呼んでいる。

予告 (八月二十二日締切)

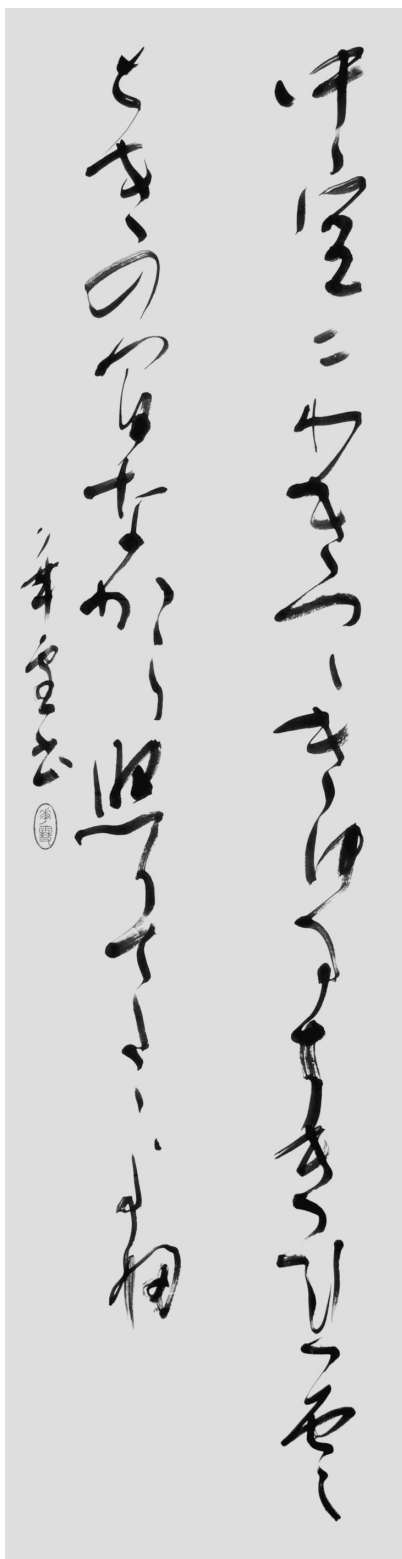
世情共逐飛蓬轉 人事都如激浪流 (孔文仲)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

A

平岡華雪先生書

中空に湧きつ、消ゆるちぎれ雲時の間ながら照りてただよふ(若山喜志子)
中空二(に)わきつ、きゆるちぎれ連雲(れ)ときの間なから照りて多(た)よふ



B

向山朴花先生書

中(中)そらに湧きつ、支(き)遊(ゆ)る千支(ち)れ雲(れ)と起(き)の間な可(か)ら照(あ)りて多(た)よふ



学び方

見上げると、空の中ほどに湧いては消えるちぎれ雲。瞬時ながら漂い輝いている、との叙景歌です。散らしは二行を寄せ、左上に余白をとり、下四字の下に落款、雅印を並べ歌の一部としました。全体の調和と流れの為、変体仮名を使用。「湧」「間」「照」など、少し難解な漢字は現代歌を意識して使用。しかし、仮名作品に馴染む柔軟な字形はなかなかです。辞書と取り組み、諸先輩の作品から字形の美と変化を学び、自己流のクセから脱却して創作に生かすようにしています。

十数年前の、平尾潮風先生の大らかな書風の手本を拝見しました。「学び方」に「詩情詩作」とあり。作品に詩情表現をするには、その詩を自分の心で汲み取り創作することだ、とあり心に沁みました。

予告 (八月二十二日締切)

松かげの岩間をくぐる水の音に涼しく通ふ日暮らしのこゑ (式子内親王集)

若山喜志子。明治21年、長野県生まれ。44年上京。太田水穂方に身を寄せ、そこで若山牧水と出会い、結婚。旅と酒の詩人と云われた牧水に尽くした。四人の子女の養育の傍ら、作歌に努めた。牧水没後は歌誌「創作」を主宰、出版。

歌風は清新平明で、心中の牧水の存在を感じさせる歌も多い。「白梅集」「筑摩野」等歌集と「若山喜志子全歌集」がある。

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部 随意参考

小林 崇華 先生 書

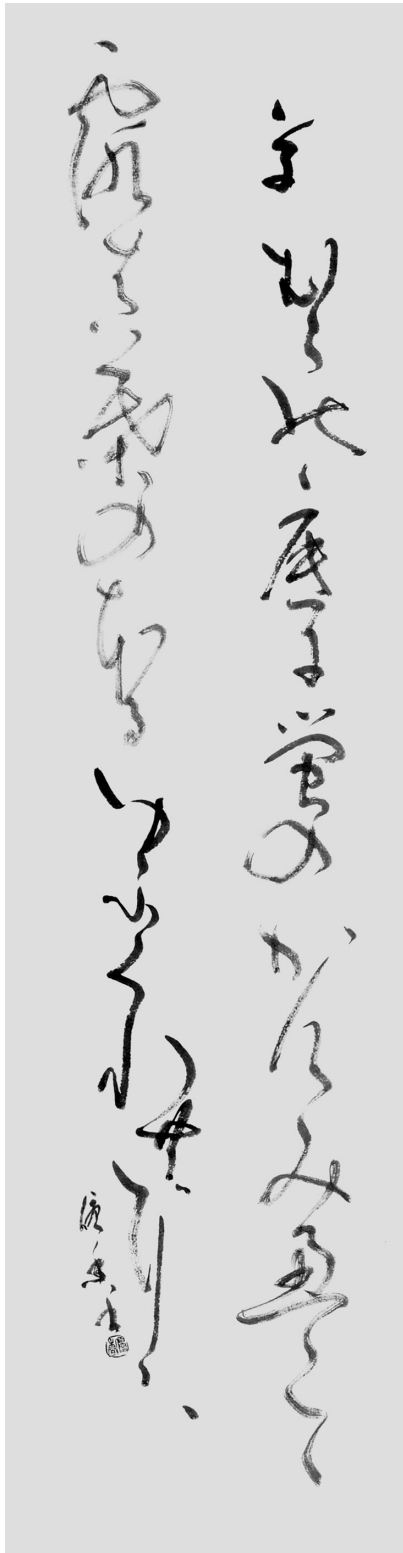
心清意亦閑（周銘）
心清く意も亦閑なり。



訳：心清くしてけがれがなければ意は自ら静清なのである。

本澤 優香 先生 書

草むらの底に螢のかけ見えて露は葉のぼる夕暮の庭（松平定信）
草むら能底尔螢のか介み盛て露者葉の本るゆふ久禮農耳八



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

水貝潮華先生書

篠懸樹かげ行く女らが眼蓋に
血しほいろさし夏さにけり

中村憲吉



今月の課題作品は三つの塊で、構成しています。それぞれの塊は空間をゆったりと取り、また墨の潤濁もはっきりとつけ区分しています。この歌は、大正初期に「篠懸樹」を「ぶらたなす」、「女」を「こ」と読ませ、都会的雰囲気のみずみずしい感覚で歌いあげていますので、濃墨で羊毛の長鋒筆、そして滲みの多い紙で表現してみました。みなさんもマンネリ打破のために、違った用具の選択も試みてはいかがでしょうか。なお、「夏さにけり」の「さり」は古い用語法で「近づく」の意にも使ったものです。

中村憲吉(一八八九〜一九三四)
歌人。広島県生まれ。伊藤左千夫に師事。東京帝国大学卒業後、大阪毎日新聞記者となり、その後、家業の酒造業を継ぐ。「アラギ」同人。写实的で繊細な歌風。島木赤彦との合著歌集「馬鈴薯の花」、歌集「林泉集」、「しがらみ」など。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料550円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

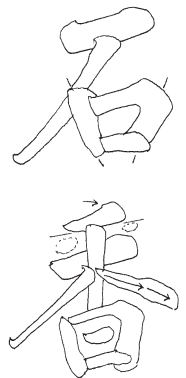


平岡華雪先生書

山晴れて石路香し (李建勳)
訳…山が晴れて石の路に香りが漂っている。

〈左払いについて〉

「石」の二画目、「香」四画目。前者は太めで直線的、後者は細めで直線的。両者共鋭く強い線。末筆で鋒先をまとめて次画へ。

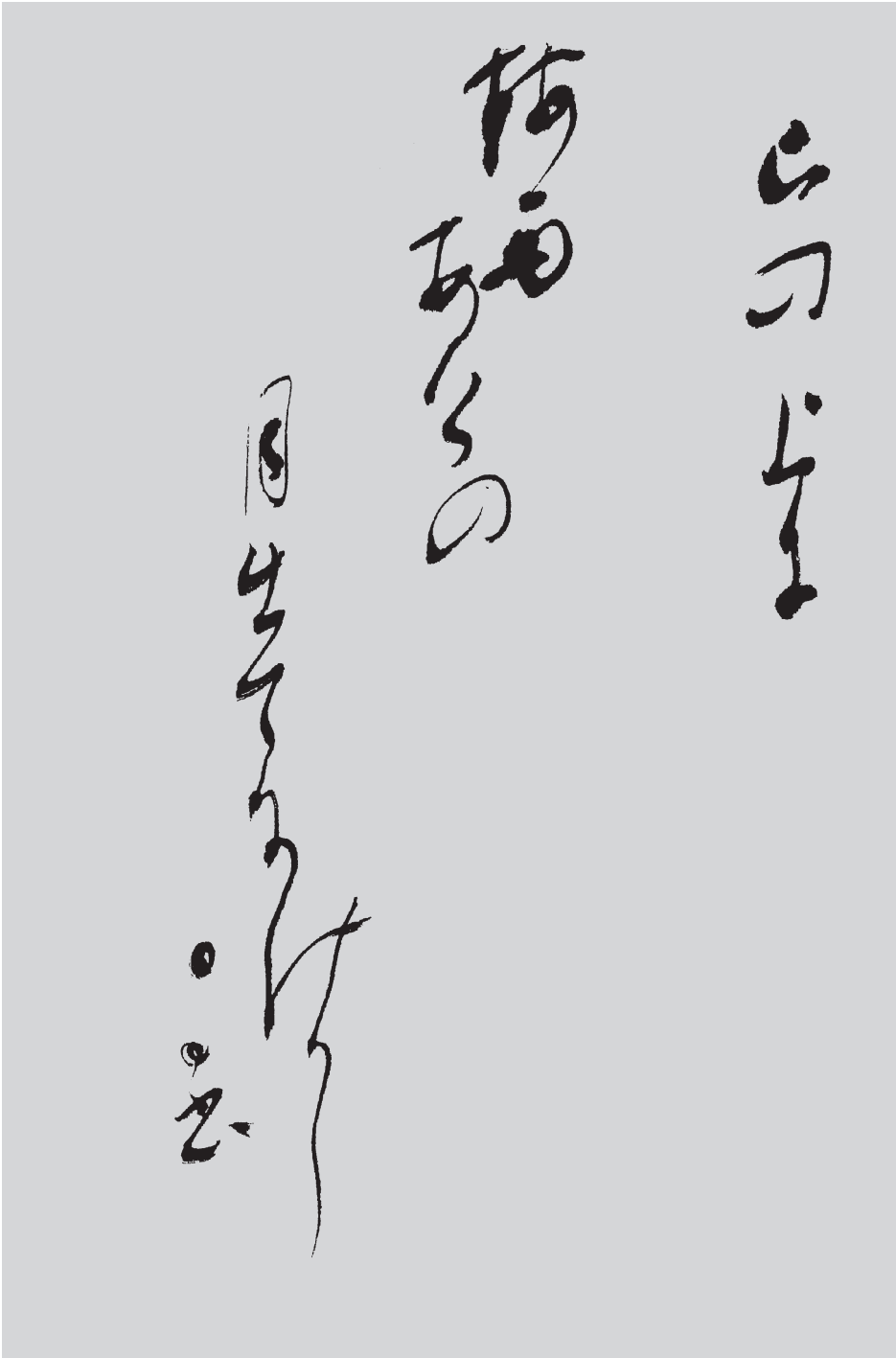


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

山の上に梅雨あけの月出でにけり (岡本癖三醉)
 山の上^に 梅雨^{あけ}の月出^でにけり



〈落款は表出の一部〉

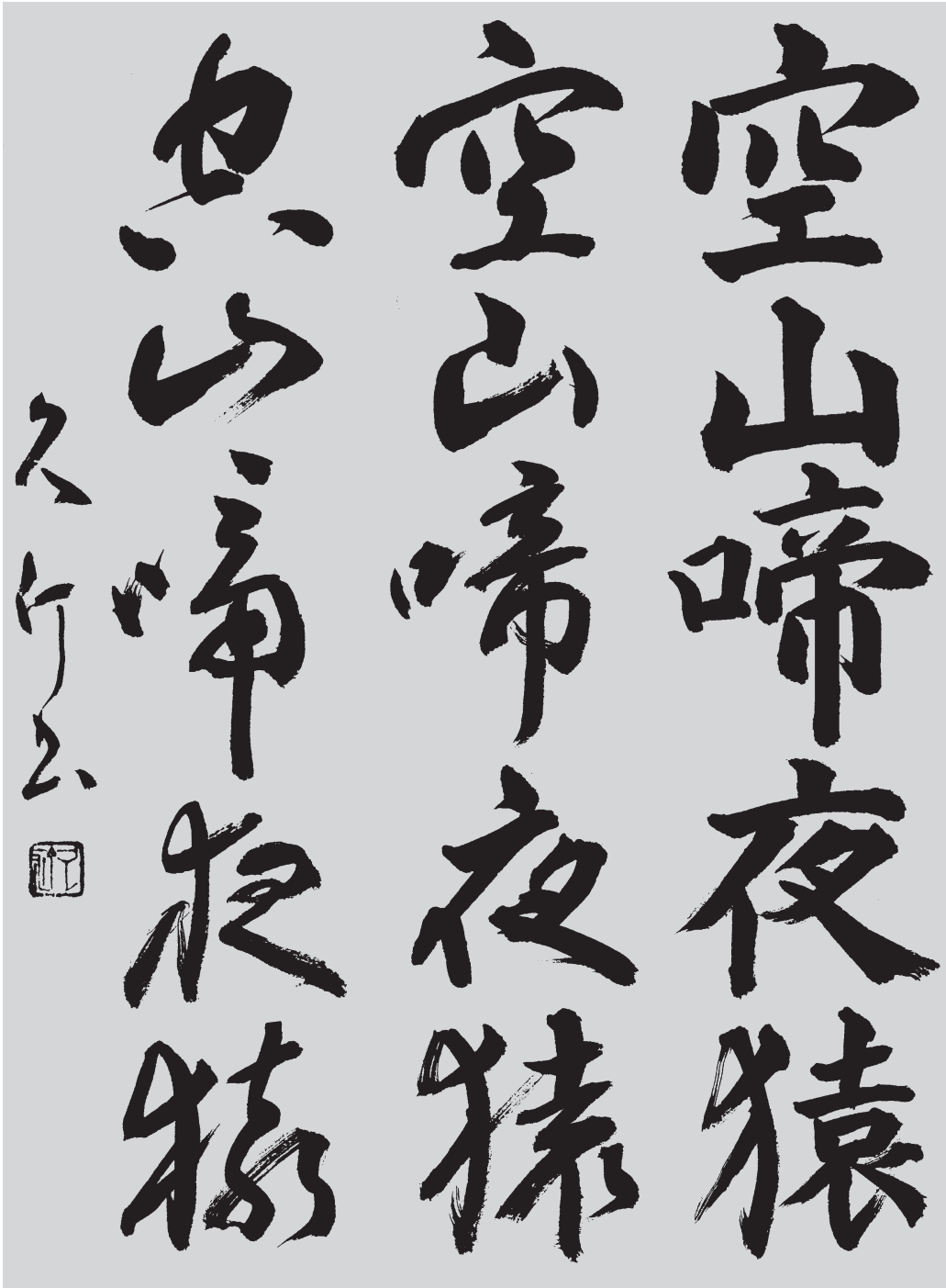
右行四字が孤立しないよう、中央行（主調となるところ）との書調を変えないよう留意して下さい。左行は、落款をどう書き入れるかがポイントの一つです。落款が別物にならないことです。落款は、単なる署名ではなく作品表現の重要な一部ということです。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

- ①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

笹崎久汀先生書

空山啼夜猿（魏徴）
空山夜猿啼く



訳：人気のない夜の山には猿だけが啼きかわしている。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円。

随 意 部 参 考

酒 井 香 雨 先 生 書

水深魚極樂 林茂鳥知歸 (杜甫)
水深く魚樂を極む、林茂り鳥帰ることを知る。

水 深 魚 極 樂
林 茂 鳥 知 歸

香雨書

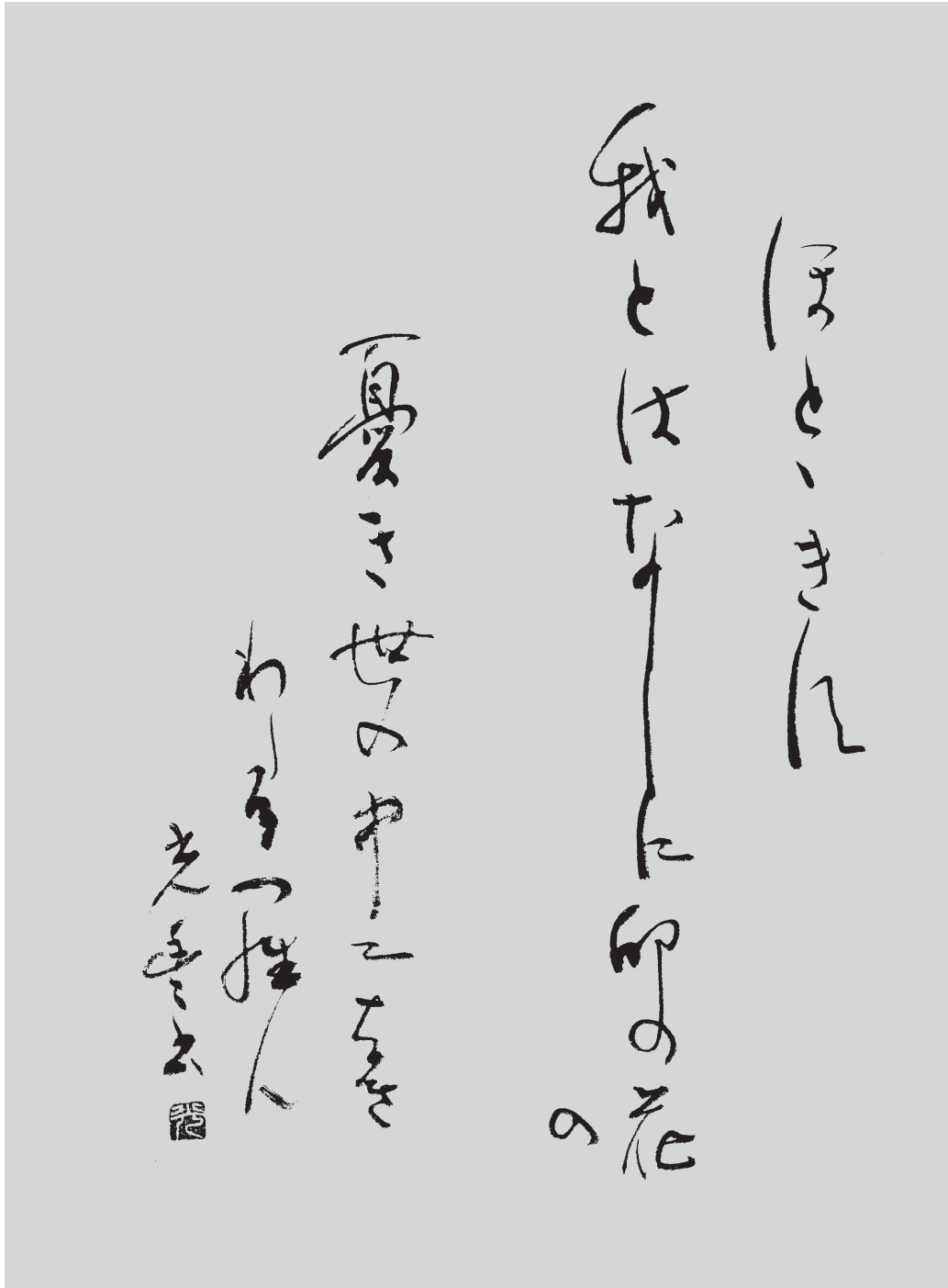

訳：水は深くして魚はこの上もなく楽しみ、林は茂って鳥はねぐらに帰ることを忘れぬ。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

絹
村
光
豊
先
生
書

ほとゝぎす我とはなしに卯の花の憂き世の中になきわたる
覽
ほとゝき須我とはなしに卯の花の憂き世の中二奈きわ多る羅ん

(古今和歌集 凡河内躬恒)



1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

湯澤春翠先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

白い陶器のコップの前には先客がいた。
波の紋の上に蛇の目のある褐色の
小さな蝶がとまっていた。

翌日はますますの天気(気)になっ
た。風もなく、気温は上がりそうだ。
ウェストンと嘉門次が南稜に向う日
の朝、穂高は朝焼けに染まったとい
う。
トントンと嘉門次が南稜に向う日の朝、
穂高は朝焼けに染まったという。

課題1 (初段階以上)

翌日はますますの天気(気)になっ
た。風もなく、気温は上がりそうだ。
ウェストンと嘉門次が南稜に向う日
の朝、穂高は朝焼けに染まったとい
う。

「百年前の山を旅する」 服部文祥

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2 (初段階以下)

白い陶器のコップの前には先客がいた。波の紋の上に蛇の目のある褐色の小さな蝶がとまっていた。

「蝶の小径」 三木卓